

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称：株式会社 マスネットワーク	所在地：長野県松本市巾上9-9
評価実施期間：平成30年7月13日～平成30年12月17日	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 060802 060672 B18058 050231	

2 福祉サービス事業者情報（平成30年9月現在）

事業所名：長野市青木島保育園 (施設名)	種別：保育所
代表者氏名：加藤 久雄 (管理者氏名) 中澤 和彦	定員（利用人数）：170名
設置主体：長野市 経営主体：長野市	開設（指定）年月日： 昭和・平成27年4月1日
所在地：〒381-2205 長野市 青木島町 大塚1361	
電話番号：026-285-2551	FAX番号：026-285-2551
ホームページアドレス： http://www.city.nagano.nagano.jp	
職員数	常勤職員：25名 非常勤職員 6名
専門職員	(専門職の名称) 名
	保育士 21名
	調理師 4名
施設・設備 の概要	(居室数)
	保育室9、給食室1、事務室1

3 理念・基本方針

理念『かがやく笑顔で 元気に遊ぶ しなのキッズ』 安心できる環境の中で、子どもが自分に自信を持ち、遊びや生活を通して友達等の人間関係を築いていく、生き生きとした子どもを育てます。
方針○健康な心と体を育てる 自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、健康で安全な生活を作り出す基礎を培う。
○感じて、考えて、チャレンジする力を育てる 好奇心や探究心を持って人や物と関わり、試行錯誤しながら最後までやり通す力を育てる。
○自信を持ち、自分を好きになる教育・保育の推進 満足感や達成感を得られる経験を通し、自信を得たり認められたりする嬉しさを感じることで、更なる意欲へとつながる教育・保育を進める。
○人との関わりを大事にする教育・保育の実践 自分の思いや考えを伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりして、人と関わりを持つことに喜びを感じる教育・保育の実践。

○家庭や地域との連携

子どもの心の安定と健やかな成長のため、家庭での子育てを支え、地域における子育て・子育て支援を行います。

○保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に沿った全体的な計画を作成し、日々の教育・保育を実施します。

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

○ドライブスルー登降園について

- ・登園時間 8 時 30 分～9 時、降園時間 16 時～16 時 30 分は、4 歳児・5 歳児を対象として実施している。保護者会と連携し、園舎北側道路の送迎時間帯の一部を一方通行とし、乗車したまま、子どもの受け入れや引き渡しを行うことで、周辺道路の混雑解消を図っている。
- ・ドライブスルー登降園利用で、掲示物を見られない保護者もいることから、2 週間ごと掲示した情報をまとめたおたよりを全家庭へ配布している。

○一斉メッセージ配信システム『オクレンジャー』の実施について

- ・平成 29 年度より保護者会と連携し、導入。非常災害時の緊急連絡、行事や諸連絡、感染症情報の配信を行い、情報の共有に役立っている。

○職員の連携が良い

- ・園児数 166 名（幼児 116 名、未満児 50 名）の大規模園であるが、幼児担当職員（9 名）、未満児担当職員（10 名）、給食担当者（4 名）で、各行事への取り組みにおいて協力体制ができている。
園庭は全園児で使用すると、子ども同士の動線が交錯し危険なため、年齢やクラスで時間を打ち合わせ、安全に使用できるようにしている。遊戯室を保育室使用していることから、室内の運動遊びをする際にも職員間で連携を取り行っている。

○地域との関わりが深い

- ・入園式、卒園式、運動会には、地域の来賓（市議会議員 3 名、青木島小学校長、青木島児童センター館長、主任児童委員、民生児童委員）が 20 名程出席いただき、子ども達の育ちを見ていただいたり、地域の情報交換をしたりしている。
- ・更北支所、更北公民館とは、更北地区夏祭りや更北こどもフェスティバルの参加を通して交流している。また更北有線放送には、年に 3 回取材に来ていただき、子ども達の様子を地域有線放送で情報発信している。
- ・地域の方から借用の畑で、年長児がさつま芋を作り、散歩時など交流している。

○時間外保育利用多数

- ・保育短時間認定は全体の 20% 未満であり、その他の家庭は保育標準時間認定である。
保育標準時間認定ではほとんどの家庭が就労等により、時間外保育を利用されていることから、時間外保育実施の園児数が多い。

5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	今回初受審
---------------	-------

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

◇特に良いと思う点

① 子どもの意欲に繋げる園庭の利用の工夫

子どもの人数が多い当保育所では、地域の子どものニーズに合わせ、公立保育所として増築を繰り返し、園舎内の安全を配慮したクラス利用の工夫を行ってきた。さらに子どもの増員に伴い、園庭も限られた場所で子どもがのびのびとした屋外活動できるように取り組みの工夫を行っている。園庭の利用時間を保育士同士で検討し、工夫している。子どもの発達段階に合わせた多くの工夫が見られた。園庭を仕切って利用し、異年齢の子どもが遊ぶ様子は、互いの子どもが良い刺激になり、異年齢の子どもの姿を見て意欲的に、小さな子どももやってみようという気持ちが高まり、元気に遊ぶ子どもの姿が見られる。

② すべての保護者への信頼関係の工夫

送迎時に利用できる駐車台数には限りがあるため、園周辺道路が混雑しやすい事が課題であった。保育所北側に面した公共道路について、保護者会の取り決めにより、送迎時間帯の一部を一方通行とし、乗車したまま子どもの受け入れや引き渡しを行う（ドライブスルー）ことで、周辺道路の混雑解消を図っている。保護者との連携を円滑にするため、毎日玄関にクラスの様子を掲示している。登降園時ドライブスルーで掲示物を見られない保護者もいることから、内容を2週間ごとまとめて保護者に報告している。登園時には園長・主任が対応し、降園時には担当保育士が対応する中で、短い時間でも伝えたい内容を伝えられるように努力をしている。また、当保育所は子どもの人数も多く、保護者との緊急時や非常時の連絡、行事等の周知、感染症発生状況等を迅速に伝えていくために、保護者会と協議し、一斉メッセージ配信システム（オクレンジャー）の導入ができた。保護者との情報共有に役立て、保育所は様々な工夫を行い、保護者との信頼関係構築に努めている。

◇特に改善する必要があると思う点

① 地域交流の発展と地域の子ども理解

当保育所は、入園式、卒園式、運動会には地域の来賓（市議会議員や小学校校長、民生児童委員、児童センター館長等）多くの方が出席し、子どもの育ちを見てもらっている。また、保育所近くの支所、公民館では、子どもの作品を展示する等で地域と交流を進めている。地域の方から畑を借り、サツマイモ作りや散歩時には地域から声掛けしてもらうなど地域交流を大切にした取り組みに努めている。今後、子どもが地域の人々と交流を深め、保育所が地域社会の一員としての社会的役割を果たすため、子どもの具体的な社会体験の取り組みが望まれる。地域の住民自治協議会との積極的な関わり、地域の高齢者施設との交流等、更なる地域交流への取り組みにより保育所の理解や子どもの育ちを地域住民が見守り育つ、更なる体制づくりに期待したい。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目(別添1)

内容評価項目(別添2)

8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合(別添3-1)

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント(別添4)

平成30年12月22日 記載

長野市保育理念、基本方針に沿い、子どもの最善の利益の観点から乳幼児期の教育・保育の質を上げていくために、日頃より取り組んで参りましたが、今回『株式会社マスネットワーク』の皆様による福祉サービス第三者評価を受審させていただいたことで、自園の評価できる点や課題についての認識を明確にすることができました。

総評におきまして、「子どもの意欲に繋げる園庭の利用の工夫」と「すべての保護者への信頼関係の工夫」を、特に良い点とし明記していただいております。このことは、子どものより良い育ちを保障していくための職員間のチームワークを大切にされた保育実践と、保護者と園の信頼関係構築に向けた取り組みを評価していただいたものと思います。これからも保育の省察を継続し、子ども達や保護者の方々の最善の利益となるよう、保育の質の向上を目指していきたいと思います。

特に改善する必要がある点といたしましては、「地域交流の発展と地域の子ども理解」をご指摘いただきました。公立保育所として、地域における役割を果たしていく重要性を再認識し、課題の解決を図っていきたいと思います。

最後になりましたが、保護者の皆様にはお忙しい中アンケートの記入にご協力をいただき、ありがとうございました。また、保育・幼稚園課の皆様はじめ、多くの方々のご支援があり、受審できましたことに感謝申し上げます。